

Money meets the Int

執筆

梶山 寛

masuyama@dabb.com

㈱タブ代表取締役、
メディア環境研究者。
99年はプロデュースしたゲーム
がNINTENDO64、プレステで発売
URL <http://www.masuyama.com/>

監修

リチャード・マイケル・
ナッシュ

Private Assets Limited 取締役社長。
国際金融の専門家として、
国際資産運用に関する
コンサルティングや
講演などを行っている

実践！インターネットユーザーのためのマネー入門



金融ビッグバンって何？
外貨預金ってホントに得なの？
投資信託のリスクってどんなもの？... etc。
おカネをめぐる状況が激変している中、
郵便貯金や定期預金しか知らなかった人は、
いったいどうすればよいのだろうか？
慌てることはない。私たちにはインターネットがある。
本連載は国際資産運用のスペシャリストを監修に迎え、
初心者向けのマネー入門講座をお届けする。

この記事は特定の金融商品への投資を勧誘するものではありません。
運用は目的を持って自己責任で行ってください。

Chapter 1 「金融ビッグバン+PC+インターネット」で できること

おカネについて 真面目に考えてみよう

おカネをめぐる状況が激変している。金融機関が抱える問題、「ビッグバン」と称される規制緩和、そして何よりも戦後最大の不況。これまで郵便貯金や定期預金しか知らず、クルマや住宅ローンくらいしかピンとこなかった私たちにも「個人の資産運用」を意識すべきときが来たようだ。もっとひらたくいえば、「今こそ、自分のおカネについて真面目に考えなければならない！」ということなのだ。そして、この激変には明らかにインターネットが深くかかわっている。それどころか、ネットワークというメディアそのものが、投資や資産運用のあり方を根本的に変えつつあるといってもよいのだ。それはもはや、企業や金持ちだけがやるべきことではない。

一方、私たちにはインターネットこそが「情報ビッグバン」なのだという強い実感がある。Eメールやグループウェアが仕事のスタイルを、ネットワークゲームが遊びのスタイルを変えてしまったように、パソコンとインターネットの組み合わせは、金融のシロウトである私たちにおカネに対する考え方の見直しを迫っている。アマゾンコムや、ヤフーといったインターネット関連企業の株を、オンラインでアメリカの証券会社から買い付ける。リアルタイム

でNY市場の株価をチェックする。税金や手数料を含めたややこしい損益計算をJAVAでやってしまう...。これまで金融にほとんど縁がなかった人でも、こんなことが簡単にできてしまうのだ。逆にいえば、パソコン+インターネットによる情報ビッグバンは、おカネという「究極のコンテンツ」の登場によって、ある種の完成形を見せるとさえ言えるのかもしれない。

この連載は、金持ちでも専門家でもない、外貨預金さえしたことがない読者向けのものだ。シロウトでは手におえない部分に関しては、日本では数少ない個人向け国際資産運用コンサルタント、リチャード・マイケル・ナッシュ氏に監修していただいた。まず手始めに、すでに大きな盛り上がりを見せている金融ビッグバンを実感できるマネー関連サイトの代表的なものをチェックしよう。



マネー情報なら インターネット

あたりまえのようだが、「デジタルデータ」とは数値で表せる情報のことだ。数字の羅列

でしかないマネー情報は、インターネットがもっとも得意とする分野なのだ。さて、シロウトにとっては「金融ビッグバン」そのものがよくわからない。まずは発信元の大蔵省を見てみよう()。ポイントを押さえた解説が、わかりやすい日本語で書かれている。概要を知った後は、日本経済新聞の連載記事「How to ビッグバン」のオンライン版を()。自動車保険から外貨預金まで、どこがどう変わるのかという部分に重点が置かれている。同じ日経の「ビッグバンだより」は、時事ネタにからめたコラムで、金融ビジネスの先端で仕事をする「人間」の表情がうかがえるのが興味深い。

マネー情報のポータルサイト代表が、「Yahoo! Finance」()。リンク集としてはもとより、フォームによる株式情報の検索、金利情報など、オリジナルコンテンツが充実している。本家の米国版も、インターネットを資産運用に活かしたいと思う人には必見のサイトだ。

関連サイト

「ビッグバンだより」日本経済新聞
<http://money.nikkei.co.jp/money/big/>

Yahoo! Finance (米国)
<http://quote.yahoo.com/>

ビッグバンを実感できる必見サイト

初心者向けマネー雑誌「あるじゃん」のウェブサイトが1月11日に全面リニューアルされ、「イサイズマネー」()になった。会員登録(無料)をすれば、ページをパーソナリ化できる。単行本は文字どおり山のように出ているが、ユニークなのが、「ゴミ投資家のためのビッグバン入門」()だ。金融商品の基礎知識から始まり、まったくのシロウトが個人でオフショア金融センターに銀行口座を開設してしまう展開がノンフィクション作品のようにおもしろい。新聞は、日経だけでなく海外サイトも基本として外せない。米国の「Wallstreet Journal」()、英国の「Financial Times」が代表的だ。



では、インターネットでは実際には何ができるのだろう。それを知るのにつけなのが、ホットワイヤードの「オンライン株投資日記」だ()。編集部から1000ドルを預かった3人の読者が、インターネットを使って米国株を買い、98年11月1日から3か月間の運用状況をレポートするというもの。日記に出てくる専門用語にとまどったら、東京インベスターネットワークの「投資情報館」()で調べてみよう。そして、上記の3人が米国株を買うのに使っているのが、ここ数年急成長している米国のオンラインブローカー。取引手数料が日本の証券会社のおよそ10分の1しかかからないのだ。

米国ではブローカーが乱立気味で競争が激化しているが、手数料の安さがウリの「SURETRADE」()、ソフトバンクとの合弁で日本法人も設立された「E*TRADE」などがある。日本でも、オンライン取引の動きが加速しており、今年から本格化するだろう。既存の証券会社の中では、松井証券の「ネットストック」()の積極性に注目しておきたい。



①「金融システム改革とは」大蔵省
<http://www.mof.go.jp/big-bang/bb1.htm>



②「How to ビッグバン」日本経済新聞
<http://money.nikkei.co.jp/money/sp2/>



③Yahoo! Japan Finance
<http://quote.yahoo.co.jp/>



④「イサイズマネー」リクルート
<http://www.isize.com/money/>



⑤「ゴミ投資家のためのビッグバン入門」alt.BOOKS
<http://www.mediaworks.co.jp/alt/bigban/>



⑥The Wall Street Journal Interactive Edition
<http://www.wsj.com/>



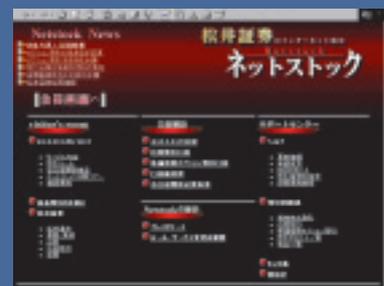
⑦「オンライン株投資日記」ホットワイヤード
<http://www.hotwired.co.jp/altbiz/otd/>



⑧「投資情報館」Tokyo Investor Network
<http://www.tokyoin.com/>



⑨SURETRADE
<http://www.suretrade.com/>



⑩松井証券
<http://www.matsui.co.jp/>

視野を広げると 驚くべき違いが!

次に、インターネットで探した情報を使って、具体的な運用のシミュレーションをしてみよう。Yahoo! Financeの金利情報によれば、日本国内の円定期預金金利は、300万円未満だと全国平均で約0.2% (98年12月21日現在)。100万円を複利で10年間預けても、たったの102万円ほどにしかならない。

一方、オフショア金融センターに登録されているファンドには、年利が数十パーセントというものがある。ここでは、最近日本でも会社や金融商品の「格付け」で知られるようになったスタンダード&ブアーズが提供する、ファンドのデータベースサービス「マイクロパル」() を使って「日本からも数十万円レベルから購入できるファンド」という前提で調べてみた。これによるとPerpetual社の「Offshore International Growth」という商品が、過去1年で10.48%の利回りを示している(98年12月1日現在)。

このケースでは、税金、手数料、為替レートなどを別と考えた場合、1999年に預けた100万円が、10年後(2008年)にはなんと約245万円にもなる(グラフ参照)。しかも、こうした年利10%の金融商品は、海外においては決してハイリスクなギャンブル性の高いものとは限らない。30%、40%という利率の実績が並ぶマイクロパルのデータベースを見ていると、むしろおとなしめの商品にさえ思える。リチャード・マイケル・ナッシュ氏は「中長期で考えれば、オフショアで10%の利回りを維持できないファンドマネジャーは失格だと思います」と言い切る。これがおカネの世界におけるグローバルスタンダードなのだ。

100万円を10年間運用したときの驚くべき格差



日本国内の円建て定期預金の金利は98年12月21日の全国平均0.2%で計算。Perpetual社のファンド「Offshore International Growth」については、98年12月1日現在の過去1年の利回り10.48%をもとに算出。

ナッシュ氏によると、金融の世界には「72の法則」があるそうだ。ある金額を2倍にするのに必要な年数は、72を年間金利で割った数だというのだ。前述のオフショア・ファンドであれば約7年。日本の定期預金では、信じられないことに360年もかかってしまう。もちろん、金利は時代に応じて変動するものだが、7~8%といったバブル時代のような状況が復活することは、当分ないというのが一般的な予測だろう。

もちろん、ハイリターンの商品にはさまざまな課題やリスクがある。元本割れする可能性も低くはない。駅前の銀行のようにに印鑑と通帳を持って行けばいいのに対応してくれる気軽さもない。逆に、膨大な選択肢の中から、英語や専門用語と格闘しつつ、自分の責任で意思決定をし続けなければならないのだ。

だったが、かつてインターネットを使い始めるにはいろいろなハードルがあった。お仕着せに近い家電製品とは違って、多くの選択肢がある中から自分のニーズに合ったパソコンを選び、周辺機器を買い足し、自宅の通信回線の状況やアクセスしやすいプロバイダーを調べ、ようやくつながったと思ったら今度はソフトの使い方がよくわからない...

しかし、そういったプロセスをある種のチャレンジとしてとらえて楽しむことができる人にとって、金融ビッグバンは資産運用を本格的に始める絶好の機会だ。しかも、すでにインターネットを使っているというのは、かなりのアドバンテージはずだ。ただ、それは趣味の商品をオンラインショッピングしたり、音楽や映像をダウンロードしたりすることとは違う。もちろん、ギャンブルでもゲームでもない。大げさにいえば資産運用を考えることは、自分の人生設計を考えることなのだ。

では、どうすればよいのか?

「パソコン+インターネット」が、使いこなすまでにそれなりの時間がかかるように、おカネのシロウトにとっては、ホームページやマネー雑誌の膨大な情報は、かえって混乱を招くばかりだろう。やみくもに始めてしまうのではなく、まず「資産運用」とは何なのかを知っておくことが必須だ。本誌では、日本でも海



資産運用はギャンブルではなく人生設計だ

これは、何か似ていないだろうか。そう、「パソコン+インターネット」を使い始めたときの感覚と近い。最近ではずいぶん楽にな



①スタンダード&ブアーズ社の「マイクロパル」ではさまざまな条件で世界各国のファンドを検索できる。
<http://www.micropal.com/index2.htm>

外でも経験の深いナッシュ氏に初歩から講義していただいた(294ページ)。どんな金融商品を選ぶ際でも、自分なりの価値基準さえしっかりしていれば、情報の海におぼれずにすむはずなのだ。詳しくはナッシュ氏の講義に譲るとして、ここではそれ以前の部分についてふれておこう。

基本中の基本は、すべてを自己責任において考えること。銀行や証券会社さえ倒産する時代だ。国家による預貯金の保証さえ、あまりあてにできなくなり始めているのだ。ましてや証券会社による「損失補填」など、個人にとっては過去もこれからも決してありえないことだ。金融商品の派手な広告に乗せられて、購入したら手数料や税金で結局元本割れ、よくよく広告を見なおしてみれば、小さい字で書いてあったなどというのではシャレにもならない。

次には、金融の仕組みや経済の基本について勉強し、世界の政治、経済の情勢に敏感になっておくこと。専門的なことまで学ぶ必

要はないが、株や債券の仕組みがある程度はわかっていないと、実際の投資の際には困ることになる。前述の「あるじゃん」誌や証券会社のホームページには、初心者向けの金融入門や株式入門といったコーナーがたくさんある。世界情勢については、小額でも自己資金で外貨預金を始めてしまえば、自然と気になってくるものだ。個人的には、「ホットワイヤード」の山形浩生氏連載コラム「ケイザイ2.0」をおすすめしておこう。

また、架空のおカネで株式投資をゲームとして体験するホームページでは、楽しみながら実践的な知識を得ることができる。国内では野村證券の「バーチャル株式投資倶楽部」、アメリカではE*TRADEの「the E*TRADE Game」などがある。

最後に強調しておきたいのは、抽象的に言えば「意識のさらなる開国を」ということだ。ほんの30年ほど前まで、日本人にとって海外旅行は特殊なことだった。また、数年前まで、

関連サイト

「山形浩生のケイザイ2.0」ホットワイヤード
<http://www.hotwired.co.jp/altbiz/>

「バーチャル株式投資倶楽部」野村證券
<http://www.nomura.co.jp/vstock/>

「the E*TRADE Game」E*TRADE
<http://www.etrade.com/>
左メニューの「Play The E*TRADE Game」をクリック

仕事や旅行以外で海外と直接情報をやりとりする人はごく少数だった。それが今では、高校生でも海外に行くのはごく普通になり、インターネットが海外とのコミュニケーションを身近なものにしてくれた。それと同じようなことが、私たちのおカネにも起きると言えばわかりやすいだろうか。金融ビッグバンとは、つまるところおカネに関する制度をグローバルスタンダードに合わせること。おカネの開国なのだから。

マネー入門者のためのキーワード解説

ビッグバン

多くの規制に縛られていた金融業界を一気に自由化する「金融大改革」。各分野の規制を撤廃して銀行、証券、保険分野などの競争促進と市場の活性化を目指す。

外貨預金

ドルなど外国の通貨を日本の銀行に預けること。それぞれの通貨の金利が用いられるため、円預金にはない利息が期待できる。また、満期日が預け入れ時点より円安であれば為替差益も得られるが、逆に円高になれば為替差損が生じる。

国際資産運用

自分の資産をドルや円など複数の通貨に分散して投資することで、リスクを減らして高い運用益を目指す運用手法。

オフショア金融センター

「タックスヘイブン」(Tax Haven = 税金避難地)とも呼ばれる。国内の市場と切り離

した形で、非居住者の資金の調達や運用を行う市場。金融、税制、為替管理などの規制が少ないのが特徴。代表的なオフショア地域として、欧州ではマン島やダブリン、スイス、また大西洋のパミュウダ諸島、カリブとその付近、香港やシンガポールなどがある。

オンラインブローカー

インターネットなどの通信技術を使って、株式や債券などの売買を仲介する業者。取引手数料の割引を武器に、米国では個人の株取引の約20%がインターネット取引になるまでに成長した。1998年末時点、日本では19社の証券会社がインターネット取引のサービスを提供している。

ファンドマネジャー

運用担当者。投資家などから資金を預かり、専門知識に基づいた独自の投資判断を下して運用にあたる。最近の特徴はファンドマネジャーの個性を前面に打ち出した投資信託も登場していることである。

損失補填

顧客の損失を証券会社などが埋め合わせる。92年の証券取引法の改正で禁止が明文化された。

インフレ

物価の水準が持続的に上昇することで、インフレーション(inflation)の略。逆に継続的な物価下落をデフレという。インフレが超過需要で物価の高騰につながるのに対し、デフレは供給過多から物価の下落をもたらすとされる。

ファンダメンタルズ

国際経済を安定させるための基礎的な条件。物価や国際収支、経済成長などを一括して「ファンダメンタルズ」という。この均衡が崩れると各国間の通貨に強弱が発生し、世界経済が不安定になると言われる。

インターネット時代の ファイナンシャルプランニング入門

監修者リチャード・マイケル・ナッシュ氏に聞く

超低金利、長期不況時代に私たちはどうすればよいのか。日本を愛する米国人スペシャリストによる資産運用の基本。これまで資産運用など考えたこともない人たちに向けて基本的な考え方について語ってもらった。

まず、目的を はっきりさせること

なぜ「資産運用」という考え方が必要なのか、からお話ししましょう。おカネがまったく要らない人は別ですが、私たちの人生には必ずおカネがついて回りますね。そして、収入は限られています。ほとんどの場合、自分が必要だと思ふ金額よりも、使えるおカネのほうが少ないでしょう。そこで、自分の目的に向けて、できる限りおカネを効率的に運用するためのプランニングが必要になってくるわけです。

自分は子供も家族も要らない、人生に何の目的もない、とりあえず生きていければいいんだという人は、別に真剣になって資産運用をする必要はないと思いますよ。また、よく「おカネ儲けそのものが目的」とおっしゃる方がいますが、それは本当の目的とは言えませんね。資産運用の秘訣はまず目的を定め、それをきちんと実行することです。

目的には 「ニーズとゴール」がある

ニーズというのは、子供の養育資金やマイホーム取得資金のような「必要」に応じたもの。ゴールとは、定年になったら海外に移住したいとか、脱サラして店を持ちたいといった人生における「夢や希望」の部分です。資産運用に目的が必要というのは欧米の金融業界では常識です。外資系証券会社のパンフレットを見ても、一番初めに「まず、ニーズとゴールを決めましょう」と書いてありますよ。

欧米でも20年くらい前までは、今の日本のように商品だけをやたらと売りこんでいました。顧客が、どれだけおカネを持っていてどんな目的があるのかをほとんど無視して、目先の商売だけをしていたんです。右肩上がりの高度成長時代には、それでもよかったのかもしれません。しかし、その時代が終わり、社会の安定性が失われていくにつれて、ニ

ズをベースにし、短期、中期、長期という時間軸を分ける資産運用の考え方が浸透していったのです。これからの日本もそうなるでしょう。銀行もつぶれない、終身雇用、適度なインフレと春闘で収入も安定という時代は終わったわけですから。

グローバルな視野で 取り組む

これは、特に投資について顕著なのですが、日本の人々はあまりにも国内指向主義が強すぎます。ファッションのブランドに関しては海外指向なのに不思議ですね。資産運用のことを真剣に考えるのであれば、自分自身は日本にいても、運用の対象は常にワールドワイドに考えなければなりません。

「国際化」といっても、日本対海外という閉鎖的な考えではなく、資産運用においては超国家的な立場で、日本も世界の国々のワンノブゼムとしてとらえる必要があります。たとえば、日本は資源輸入大国ですから、アメリカやヨーロッパのことでなく、アジアや南米などの情勢、インフレ率も意識していないと、資産が実質的には目減りしてしまうこともありえるのです。

運用は 中期～長期で考える

短期的な金融市場は機関投資家といわれる莫大な資金とハイテクで武装した超専門家集団が、まさに秒単位でグローバルにシノギを削る世界です。彼らは、専門用語でいう「テクニカル」な要素、短期的な市場心理を自前のプログラムで解析します。とても個人が太刀打ちできる状況ではありません。しかし、例外はありますが、市場というのは長期的に見

Profile



リチャード・マイケル・ナッシュ
Richard Michael Nash

1956年米国生まれ。ワシントン州立大学で工学を専攻、国際基督教大学(ICU)では異文化コミュニケーションを専攻した。卒業後、アメリカン・インターナショナル・グループ(AIG)日本支社AIUに勤務。1985年にカリフォルニア州立大学(UCLA)大学院に入學し金融学を専攻、MBAを取得。その後、モルガン・スタンレー投資銀行債券部、三井信託銀行ロサンゼルス支店でのアシスタント・ヴァイスプレジデント、ブルデンシャル・リアルティ・グループでの不動産・資産運用マネージャーを歴任。その後、香港でオフショア投資およびオフショアバンキング業に従事し、1996年に再来日。国際資産運用の専門家として活躍中。本連載では監修を務める。

れば周期的に動いているのです。短期的な乱高下があっても、長期的には同じ市場でも右肩上がりになっていることも多いでしょう。各国の政治の安定性や経済状況などは「ファンダメンタル」な要素と呼ばれ、こうした長期の動きに反映するのです。

個人がある程度安定した資産運用を望むのであれば、ゲーム感覚の短期的な売り買いではなく、5年～10年といった中長期的な展望を持ってプランニングをしなければなりません。私がコンサルティングするときも、必ず短期、中期、長期のニーズとゴールを最初にお聞きします。

自分の リスク許容度を知る

まず、資産運用にはさまざまなリスクが付きものというのが前提です。運用の際、ニーズとゴールがはっきりしていても、どの程度のリスクに耐えられるのかわからないと、何万種もの選択肢の中から具体的な商品を選ぶことができません。投資の鉄則は、ローリスク・ローリターン、ハイリスク・ハイリターンです。ローリスク・ハイリターンというのは、一般的にありえないのです。リスクを回避したいと思っているのに、ハイリターンのほうに目を奪われて理想を追い求めてはいけません。自分の性格や資産の状況を慎重に検討し、リスク許容度を見極めてください。

資産を広く分散して 投資する

これからの資産運用においては、資産を広く分散することも非常に重要です。これまで



は、不動産、株、現金といった程度の「分散」が言われていましたが、基本的には日本の中だけの話だったわけです。グローバルに考えるということは、通貨、国、産業などを広く分散しなければいけません。商品の種類も、株、債券、通貨など自分のリスク許容度に応じて分散する必要があります。理論的にいえば、分散すればするほど、リスクも分散されるのです。

「ポートフォリオ」という言葉をときどき聞かれますが、元々はたくさん書類を分類して整理するジャバラ型の書類入れという意味です。資産運用においては、幅広く分散した資産の明細のことを意味します。おカネを総合的に運用、管理するための概念です。

専門家のアドバイスを 受ける

日本では、まだ個人の資産運用に関して専門家にアドバイスを受けることに抵抗があるようです。自分のおカネのことは「あなたには関係ないでしょう。何が儲かるのかだけ教えてくれ」といった具合で。ただ、それでは病人が症状も伝えずに「とにかく痛み止めをくれ」と言っているようなものです。証券会社や銀行が、大勢のお医者さんがいる大病院だとすれば、個人のファイナンシャルアドバイザーは、顔見知りで、子供のころから診ても

らっているファミリードクターだと考えてください。一般的に欧米では、ファイナンシャルアドバイザーも弁護士や医師と同じように顧客の秘密を守ることが求められていますから、安心してプライベートなことも相談できるわけです。



本(左下参照)にも書きましたが、私は日本と日本の人々が好きなので、今の日本の状況を憂えています。何でもアメリカの都合で動くのはおかしいですね。日本は何千年もの歴史があるわけですから、もっと誇りを持っていただきたい。アメリカでは貧富の差がどんどん激しくなっています。ちょっとした国家と同じくらいの資産を持つ億万長者とホームレスの両方がいます。社会における富の分配が、あまりうまくいっていないということでしょう。歴史を見ればわかるように、この状況には必ず揺り戻しが来るでしょう。

日本経済は確かに厳しいですけども、まだまだ発展する要素はあります。ただ、今の時点では為替リスクを含めても、海外での資産運用を考慮されるべきだと思います。特にインターネットを利用している方であれば、情報も豊富ですから、いろいろと調べられるとよいでしょう。ただ、インターネットが便利あまり、ゲーム感覚で投資をとらえる人が増えるのではないかとこの危惧もありますが。

次回予告

「外貨預金」を インターネットで徹底分析

金融ビッグバンの原則はフリー、フェア、グローバル。それを実践するためには、自分の資産をドルや債券といった外貨で持つ必要も出てくるだろう。いまや円だけで思考しては何も始まらないのだ。

次号では、日本で始まったばかりのシティバンクのインターネットバンキングを中心に、外貨預金の意味とリスク、そしてその可能性を徹底検証する。



『日本人のためのオフショア金融センターの知識』
著者：リチャード・マイケル・ナッシュ
発行：ダイヤモンド社
価格：本体2400円＋税
ISBN：4-478-26043-5



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp